

茨城式造林法で潮害と 飛砂害を防いだ河田杰博士

——村松山虚空蔵堂周辺のクロマツ林・東海村

茨城県の海岸線のほぼ中央部に位置する東海村は、原子力施設や村松山虚空蔵堂など近代と歴史が混在する地域です。それらを守るように海岸線に沿ってクロマツ林が広がっています。

この美しいクロマツ林は江戸時代に水戸藩主・徳川斉昭によって水戸八景の「村松晴嵐」に指定されました。「白砂青松」と呼ばれる景観は美しいものですが、大正年間にクロマツ林の砂防林を作り上げたのが、東京出身で当時の林業試験場技師の河田杰博士でした。

河田博士は同地が砂防造林試験地に指定されたことを受けて、独自の造林方法で22万本のクロマツを植樹。その方法は土地の水分を保つために県内産の麦稈、苦竹、アカマツ材などを工事材料に用いたことから「茨城式造林法」と呼ばれ、全国の砂防林の模範となりました。



日本農学賞を受賞した河田博士ですが、村松海岸での28年間にわたる造林試験を「半生の心血を注ぎ」と振り返っています。

河田博士は東大農学部を卒業し、東京営林局造林部長、青森営林局長などを歴任、昭和22年には村松海岸の砂防技術について県知事から感謝状が贈られました。

さて、その砂防林に囲まれた村松山虚空蔵堂は「十三詣り」として多くの参拝者で賑わいます。毎年、3月末から4月上旬に行われるお祭りには13歳の最初の厄年を迎えた子どもたちが参拝に訪れます。厄除けと大人の入り口に立ったことに感謝し、輝かしい未来への足を踏み出す覚悟をかみしめます。

参拝の際には先人たちの築いたクロマツ林にぜひ目を向けてください。そこには砂地に生きるクロマツの光景がすがすがしさを与えてくれるはずですよ。

〈参考文献〉「続 茨城の科学史」(朝日新聞水戸支局編)ほか

2015年の大祭護摩祈願……4月3日



【観光に関する問い合わせ】東海村観光協会 TEL.029-282-1711
 【アクセス】国道245号線近く。JR東海駅から車で約10分、茨交バスで約15分(片道260円)。
 ※バスは4月1日より運行開始

「運ぶ」を支え、環境と未来をひらく
ISUZU 茨城いすゞ自動車株式会社
 本社 / 〒310-0063 水戸市五軒町1-2-5 ☎029-225-1215(大代) <http://www.ibaraki-isuzu.co.jp>